

海老名災ボラ情報 No.9：2021年3月定例会の報告と今後の予定

2021年3月23日発信、文責：海老名災ボランティアネットワーク代表・福田博

【1】会計からの報告（松井会計） 2021年2月末時点での会計報告

- 1) 一般会計 2021年2月末日現在 357,894円（±0円）、（ ）内は2月末比
会員数：個人会員31名（±0）、賛助会員13名（±0）、団体会員3団体（±0）
- 2) 特別会計 23,540円（±0円、10月末比）

【2】活動報告 2021年2月14日以降～3月21日まで

3月22日に1都3県の緊急事態宣言が解除された。3月22日以降、市福社会館も開館した。

1) 2月14日（日）以降～3月23日まで

- ① 2月14日（日）10時～12時：海老名災ボラ定例会をZoomで開催（Zoom主催者：福田）
参加者：11名、21年度役員候補を確認：代表（石橋友晴）、副代表（星野隆一郎、三宅良子）、
会計（松井俊輔、小澤昌平）、会計監査（永山八郎、嶋原やわた）
- ② 2月16日（火）海老名防災関係3者定例会、会場：海老名市文化会館ロビー
テーマ：「新型コロナ禍での災害ボランティアセンターの設置・運営」のレイアウト確認
大規模災害時に文化会館（ロビー等）に災害ボランティアセンターが設置される予定で、文化会館のロビーと中庭を使って、受付、マッチング（帰着報告）、資機材などのレイアウトを設定した。今回はコロナ関係があるので、少人数で実施した。【出席】社協：岩澤、危機管理課：川崎、災ボラ：福田、星野
- ③ 2月22日（月）「海老名市地域防災計画の修正案」を書面議決で決定 参加：三宅
国の防災基本計画と神奈川県地域防災計画の一部修正に合わせて海老名市の計画を修正したこと、もう一つは市内10か所にあるマンション自治会から提出された地区防災計画を承認したことである。
- ④ 2月23日（火、祝日）：神奈川災ボラ第5回運営委員会、Zoomで参加：福田、嶋原義弘
・神奈川災ボラ紹介の小冊子の作成：海老名災ボラの紹介文は福田が作成して神奈川災ボラへ送付済
・東日本大震災追悼のつどい：3月11日（木）午後6時30分～Zoomで開催
- ⑤ 3月6日（土）「東日本大震災から10年、地域で備える・かながわ防災・減災フォーラム」 YouTube「～住み続けられるまちづくりをめざして」主催：神奈川大学、運営：神奈川新聞、後援：神奈川県、横浜市、神奈川災ボラから案内があった。無料、事前申込制、参加者：福田
- ⑥ 3月11日（木）午後6時30分～「東日本大震災追悼のつどい」 神奈川災ボラ主催、Zoom方式
海老名災ボラの会員であれば誰でも参加できる。参加：石橋（山下公園）、福田（Zoom）
- ⑦ 3月10日～3月16日：神奈川災ボラの「災害時支援情報伝達訓練」：オンライン：参加、福田
神奈川県内が大規模な自然災害の被災地となった場合、神奈川県社会福祉協議会が県災害ボランティアセンターを設置し、大きな被害を受けた市町村では、市町村社会福祉協議会が市町村災害ボランティアセンターを設置する。神奈川災ボラ単独での実施で、参加団体が支援要請側（被災地）と支援供給可能団体に分かれて、「人と物資」の要求と供給をオンライン（Webメール）で実施した。海老名災ボラは供給側で参加。

2) 海老名災ボラ定例会：3月21日（日）10時～12時30分。Zoom方式で実施（3回目）

3月21日（日）10時～12時30分：Zoom（福田博主催 Zoom ミーティング）で開催。計14名

【参加】吉野、永山、三宅、黒田、野中、水本、嶋原やわた・義弘、松井、星野、松井、鷺見、石橋、石丸

① 海老名災ボラ2021年度の定期総会（第20回定期総会）に向けた討論 10時～11時頃

討論資料：2021年度定期総会の資料（「たたき台」）を参照（メールリストで事前に送信＋郵送）

【2020年度「コロナ禍の中での災ボラ活動をふりかえって」：出された意見（要点）、ほぼ全員が発言

1. 自治会防災委員をやってきた。自治会員の関心が未だ低いので、どうやって高めるかが課題だ。
2. 自治会の防災指導員を4年間やってきた。災ボラ会員が自治会の防災・減災活動に関わってほしい。
3. 危機管理課が自治会連合会に提案して2021年度から各自治会で防災指導員を倍増した。防災指導員に対する研修なども充実すると危機管理課は言っている。
4. マンションの自治会役員で、マンションの防災・減災を軸に活動、東日本大震災の映画を上映した。
5. 私の地域は、海老名市内では比較的安全な高台にあるので、災害に対する関心が低下している。
6. 高台では木造住宅の火事延焼の危険や崖地でのがけ崩れの心配がある。
7. 1981年（昭和56年）6月1日以降の建築基準法の耐震基準で建築された建物では震度6程度では壊れないと想定されていた。現在、それでは不十分だと言われている。
8. 私の家は海老名市南部の相模川と永池川の近くにある。2019年秋の台風では永池川が氾濫危険水位ギリギリに来ていた（内水氾濫の危険）。大地震で東名高速道路や国道246号など主要道路で一般車両が通行できなくなった場合、海老名市南部は孤立してしまう危険があるという話を聞いた。
9. 10月31日：海老名災ボラと自治会連合会共催の豪雨災害に関する学習会で、ある自治会が豪雨災害の時に避難できる場所（民間施設）を増やす活動をしているという話も聞いた。役員の危機意識が重要。
10. 自分の所属する団体でも、コロナ禍の中で防災・減災活動がほとんど実施できなかった。
11. 現在、入院中です。今後、リハビリもあるので長引く可能性がある。そのため、十分な活動はできないが、障害者という立場で海老名災ボラに関わっていきたいと思っている。
12. ボランティア活動を20年間、続けてきたが、やはり継続することに意義があると思う。会員の皆さんがそれぞれの立場でアイデアを出し合うことが重要だ。
13. 災ボラ会員となって未だ短いですが、海老名市民に、災ボラが何を目的として・どんな活動をしているか知られていない。そこをPRしていくことが重要だと思う。
14. コロナ感染症拡大で、集まって行う活動はほとんどできなかったが、メーリングリストでの情報発信、郵送、lineグループ作成、Zoomの利用など、災ボラ会員のコミュニケーションという面では前進したのではないか。

② 「コロナ禍での災害ボランティアセンターの設置・運営」に関する学習会：11時頃～12時30分頃
討論資料：「コロナ禍での災害ボランティアセンターの設置・運営の討論資料（修正1）」を参照。

（メーリングリストで送信済、一部は郵送）、この討論資料を説明しつつ、参加者の意見を聞いた。

【出された意見】要点のみ、

1. 災害ボランティアセンターのスタッフの条件について：「PCR検査を受けている」（陰性）とか、「ワクチン接種を受けた」ということを条件にするかどうか、今後、検討する必要がある。
2. 会社での経験から言うと、感染症拡大防止対策（マスク着用～3蜜対策など）を、手抜きをせずに、的確に実施すれば、感染のリスクはかなり低下できる。
3. 最初、受付でのチェックと対応が感染防止対策実施の中では重要だ。
4. 手洗い場で、自動で水が出れば良いが、触れなければならない部分がある場合はその後の消毒も必要。
5. 災害ボランティアセンターに集まるボランティアや物資について、情報発信力のあるボラセンと情報発信力の弱いボラセンとでは、集まるボランティアや物資に大きな差が発生することが考えられる。そこをどのように調整できるのか、そうした態勢が出来つつあるのか？
6. 2019年秋の台風19号で大きな被害が出た川崎市や相模原市で災害ボランティアセンターが設置された。その時に、神奈川県民サポートセンター（神奈川県組織）、県社会福祉協議会、神奈川災ボラ、県共

同募金会と4者が集まり、県災害ボランティアセンターが設置された。しかし、ボランティアや支援物資の適切な配分（必要な時に必要な団体への供給）という機能はほとんど実施できなかったと思う。結局、川崎市ボラセンと相模原市ボラセンがそれぞれの支援を受ける活動の主軸となった。

7. 神奈川県が被災地になるような大規模な災害が起こった場合、県一市町村レベルでの行政―社協―ボランティア団体の協力が必要である。県ボラセンと市町村ボラセンが協力して全県的な支援態勢の構築（ボランティア、支援物資供給など）が必要となる。

8. 神奈川災ボラでは、2021年3月10日～16日に、「災害時支援センター情報伝達訓練」を実施した。神奈川災ボラの参加団体を被災団体（支援要請団体）と支援団体（支援可能団体）に分けて、支援要請団体から人と物資の支援要請を発信し、それを受けた支援供給可能団体から供給可能な人と物資を神奈川災ボラ支援室に発信し、支援室で人と物資を調整（配分）した情報連絡訓練を実施した（福田が参加）。

9. 大規模な災害の場合、市町村単独の対応ではなく、広域的な連携（近隣市町村の連携）も必要になるのではないかと。広域連携は行政・社協・ボランティア組織が合わないとうまくいかないと思われる。

【3】今後の予定 2021年3月～5月

1) 海老名災ボラ関係

① 4月（4月4日～18日）、会計監査：2020年度の会計（松井、小澤）と会計監査（永山、野本）
会場を借りて行るか（福祉会館、文化会館）、書類持ち回り（2020年度と同様）で実施するか、コロナの状況次第であるが、松井会計と永山会計監査を軸に話し合ってもらいたい。

② 海老名災ボラ4月定例会：2021年度定期総会資料（案）を討論し確定する。

A：緊急事態宣言が解除されていれば、4月24日（土）に会場（福祉会館か文化会館）を借りて開催。

B：緊急事態宣言が解除されていなければ、4月25日（日）にZoomミーティング方式で開催。

③ 連休明け（5月中旬）に定期総会を開催

A：緊急事態宣言が解除されていれば、5月15日（土）に、会場（福祉会館、文化会館）を借りて開催。

B：緊急事態宣言が解除されていなければ、5月15日（土）までに、書面議決方式で開催。

④ 社協関係：海老名市ボランティア連絡協議会

4月2日（金）役員会：出席予定、三宅、4月9日（金）定例会：出席予定、水本、野本

2) 「新型コロナ禍での災害ボランティアセンターの設置・運営」に関する学習会～訓練の開催

★3月21日（日）に「新型コロナ禍での災害ボランティアセンターの設置・運営」学習会を開催した。

4月以降～（時期は未定）に、新型コロナ感染症拡大が沈静化した状況になれば、感染防止対策を実施した上で会場を借りた実施訓練を行うことを社協に提案している。（主催：海老名社協、協力：海老名災ボラ、危機管理課）、会場は海老名市文化会館（休館日に開催）

3) 海老名災ボラのオンライン化の推進

海老名災ボラのメーリングリストに登録している会員、海老名災ボラlineグループに参加している会員、Zoomにアカウント登録した会員を今後とも増やしていく。

海老名災ボラのホームページの更新の件：2018年11月24日以後～更新が出来ていないので、広報班で検討中。18年秋以降のホームページの内容（コンテンツ）を福田が中軸になって作成し、広報班のメンバー（複数）がホームページにアップする。

以上